New Nogata　　2025、2、17

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス
共育コラム

子ども（たち）の成長に悩み、子ども（たち）に救われ

それでも心配の種は尽きず

一年の終わりが近づいてきています。一年間、子どもが成長していく過程においては、いいことばかりがあるわけではありません。まだまだ成長過程で未熟な子どもたちは、心と体、そして頭（脳）の土台部分が不安定で、何かの刺激をきっかけに、心身の状態が揺らぎ、それが強く出るときがあります。そんなときは、子ども本人もしんどいでしょうが、かかわるおとなもしんどいですね。

クラブでも学校でもそうですが、集団が形成されているなかで、最上級生の状態は、集団全体の状態を大きく左右します。小学生ですから、その年その年の６年生の状態が、全体を大きく左右するということになります。まだまだ土台が弱いため悩ましい状況が断続的に繰り返し起きるなかで、私は常にきびしい目線で子どもたちの活動を見ていくことになります。

そんな気を緩めることのできない日々を送っているなかで２月 13 日（木）の練習、いつものように 18 時前に体育館に向かい、横のドアを開けて入ろうとすると、子どもたち全員が私の前に整列をして、「お誕生日、おめでとうございます」と言って、「ハッピーバースデー、トゥ、ユー…(^^♪」…。２月 14 日（金）は練習がないことを見据えて、一日前のサプライズでした。子どもたちの課題と向き合う毎日で、自分の誕生日を自覚することもなく、重苦しい面持ちでドアを開けた瞬間の予期せぬできごとで、びっくりでした。同時に、子どもたちのくったくのないサプライズにやられました。子どもから「何歳になりましたか」の質問があり、「64 歳」と本当の年齢を言わざるを得ませんでした（別に隠しているわけではないのですが）。その後すぐにキャプテンの「練習再開」の声で、パッと散って練習が再開しました。ほんの一瞬のできごとでしたが、課題と向き合う重苦しい日常に、ほっと一息つかせてくれた瞬間でした。６年生で相談したサプライズだったそうで、子どもたちに感謝です。その場でも伝えましたが、「ありがとう」でした。

しかし、それによって課題が消えたわけではありません。おとなとして認識しておくべきことがあります。それは、現代の子どもの世界の半分はネット空間に拡がっていることです。今の日本では、ここは、ほぼおとなの目線が届かない空間になっています。家庭から学校ようすがわかりにくい以上に、ネット空間での子どもたちのようすは、ともすれば全くわからないというのが実態でしょう。ネット空間のなかで、子どもたちが何をしているか、どんなやりとりをしているか、把握できていないと思います。

ネット空間（とりわけグループライン）のなかで、悩みが語られ自分で自分を傷つけていたり、ぶつかり合って誰かを傷つけていたり…。それがきっかけでネット空間に収まらなくなったとき、現実社会で事象として表面化してしまいます。

未成熟な子どもが、未熟な知識とスキル、モラルのまま、無防備な状態で、おとなの見守りもなく、このような SNS を駆使してネット空間で自由に遊んでいることがいかに危険なことか、各家庭で今一度

考えてみる必要があると思います。自分は良いと思う使い方をしていても、危険なことに巻き込まれることは普通に起きるのが、ネット社会です。法の規制が届きにくい空間ですから、当然そのようなことが起きてきます。今の日本では、ほぼほぼ規制がかかっていませんから（かかっていないのと同じですから)、ネットの中では、平気で無責任な意見が述べられていたり、他者への誹謗中傷であふれかえっていたり、差別・偏見表現が横行していたり…。

各家庭で規制がかけられていなかったり、緩かったりすれば、おとなと同じものを目にしていると思っても過言ではないでしょう。使用時間を規制されているところは多いと思いますが、内容については、確認が難しく、ほぼ把握されていないのが実態だと思います。教育現場では、「メディアリテラシー」と言って、メディアから得た情報を見極めるスキル」、つまり「メディアの情報をそのまま受け取るのではなく、自分で考え確認するスキル」を身につけるための学習が行われていますが、十分ではありません。学校でも、家庭でも、社会的にも、学習機会は十分備わっていないのが現状です。学習が積まれてなく、十分な規制がかかっていないネット空間で、わが子が毎日自由に遊んでいるとしたら、どうでしょうか。現実に子どもたちの多くがグループラインをはじめ SNS を駆使して遊んでいます。遊んでいることは知っていても、どのような遊びか、どんなやりとりが行われているか、知らない、わからない場合がほとんどではないでしょうか。かと言って、毎日細かくチェックをするというのもどうかという気持ちがはたらき、手つかずの状態になりがちですね。

私は、子どもの使用については、国として一定の規制をかけるべきと思っています。しかし、それができるまで子どもは待ってくれません。おとなとして今できることを考え、手だてを講じる必要があります。最低限、これらのことに関心を高くもって子どもの日常生活を見守っていくことが、一定の歯止めになっていくと思います。

今は、昔とは違った子育ての難しさがありますね。悩ましい日々は、まだ続きます。クラブの監督はボランティアですが、子どもの育ちを育むことに関しては、本業です。おとなとしての役割だと思っています。

せめて、入部してきて私と出会ってくれた子どもたちの育ちには全力をつくそうと思っています。だから何かあればできるサポートはします。見捨てられない、でも子どもの成長課題を解決するのは簡単なことではありませんし、時間もかかります。週単位、月単位、年単位、5 年後、10 年後…それだけ悩ましい時間、苦しい時間を過ごすことになります。一人ではとてもじゃないけど抱えきれないですね。相談できる、一緒に考えてくれる、信頼できる他者とのつながりをもっておくことはとても重要です。「一人の子の育ちには村中の人の力が必要」、これはアメリカインディアンのことわざだそうです。昔の日本社会は、まさにこのなかで子育てが行われてきました。それが少しずつ形を変えてきています。しかし、どれだけ形が変わっても、多くの人の力が必要であることは変わりません。一人ひとりの子どもたちが卒部する日まで、卒業の日まで、その子にかかわる一人のおとなとして、私にできることをがんばりたいと思っています。もちろん、その後も必要があれば動きます。

残りの練習回数は 15 回をきりました。今年度の 6 年生を中心とした活動（練習)、チームづくりは、最終段階に入っています。すべての子どもたちが、この一年の最後をそろって迎えることが、それぞれが次の一歩をふみ出すエネルギーになります。 6 年生は中学校に向けて、 3 ～ 5 年生は一学年進級し、新たなチームづくりに向けて。 6 年生から 5 年生にクラブのバトンが渡されていきます。